

社会福祉法人肝付町社会福祉協議会 設立20周年記念事業
～障がいや悩みがあってもなくても やさしい地域 思いやりのコミュニティを！～



あらゆる困難を乗り越え挑戦するチャレンジャーのトークイベント

ハートフル☆チャレンジ

講演会

2026年

日時

2月15日(日)

10:00-12:00

申し込みは下記
予約フォームから

申込〆切：2/1(日)

会場

内之浦 銀河アリーナ
肝属郡肝付町南方289

参加費
無料



人生には、年齢や障がいの有無に関わらず、誰もが「壁」に出会います。
今回の講演会では、異なる立場で困難に挑み続けてきた3人の講師が、
その“壁”をどう受け止め、前に進んできたのかを語ります。
社会で行きづまったり疲弊したり、子どもがつまづいたり立ち止まったり
した時にどう寄り添うか。
前向きに生きる力をどう育むか——そのヒントを一緒に考えてみませんか。

共催：社会福祉法人肝付町社会福祉協議会 ハートフルチャレンジ☆ネットワーク

協賛：かごしまバリアフリーツアーセンター UDラボ合同会社 NPO法人心のバリアフリー仲間

後援：鹿児島県社会福祉協議会 鹿児島県共同募金会 日本赤十字社鹿児島県支部 おおすみ観光未来会議 大隅地区社会福祉協議会連絡協議会

トークイベントの目的

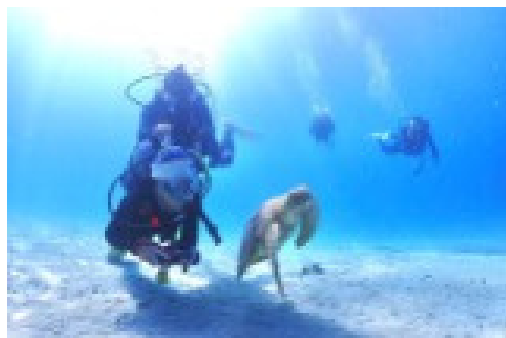
災害やパンデミックに止まらない紛争、地方の少子高齢化や過疎化、そんな世相の昨今、あらゆる困難を乗り越えながら挑戦するチャレンジャーのトークイベントを開催し、障がいや悩みの有無に関わらず、すべての方々が“あるがまま”のマイナフルネスで、それぞれが前向きにスモールステップを踏み出せるヒントを得る機会とする。

チャレンジパネリストの紹介



走る冒険家PONちゃん
(岩元 みさ)

1993年鹿児島市出身。
高校時代の挫折からすべてを投げ出した数年間を乗り越え、2018年4月世界一過酷と言われるサハラマラソン237kmに出場。その後も南極など地球上の様々なウルトラマラソンに挑戦し続けている。
2025年夏は日本縦断2,724kmを走破し、2026年はアマゾンジャングルマラソンにチャレンジ予定。
そのチャレンジ精神は子どもからお年寄りまで幅広い世代の心を震わすモチベーションスピーカーとして活躍中。



矢野 剛教
(やの まさたか)

1988年鹿屋市出身。
社会福祉士、障害平等研修 (DET) ファシリテーター。
生まれつき脳性麻痺で車椅子生活。障がいがあっても人生の選択肢を広げると水泳やスポーツなどに挑戦しながら、その経験で講演活動も行う。趣味はスキューバダイビング、車椅子テニスなど、多種多彩に挑戦中。



岩城 省吾
(いわき しょうご)

1993年鹿児島市出身。
理学療法士、競泳・トライアスロン国体選手。全国障がい者スポーツ大会競泳チームコーチ。
理学療法士として医療分野で働いていたが、「その人らしい支援」に限界を感じ独立。高齢者の健康づくりから子どもの療育指導なども手掛けてきた。
2025年3月から、頸椎損傷者との「世界一周チャレンジ」に帯同した。帰国後、オーストラリアに渡り、多国籍の人々に水泳の楽しさを伝えながら、県内のチャレンジ仲間とエールを送っている。

コーディネーター (津代 幸一郎)



社会福祉法人肝付町社会福祉協議会 常務調整役。
社会福祉士、精神保健福祉士、心理カウンセラー、公認パラスポーツ指導員、赤十字救急法・幼児安全法・水上安全法指導員。
大隅半島でパラスポーツの場作りを行いながら、コロナ禍では障がいや事情のある子どもたちとのチャレンジ活動をパネリストと県内で継続し、そのつながりでボランティア支援ネットワーク構築を目指す。プライベートでは、自身の子どもが現代医学では完治できない難病と宣告され奈落にさまよう。後に一転奮起、独自の家庭教育支援で医学部に合格した。

アドバイザー (小松尾 京子)



鹿児島国際大学准教授。
大阪市立大学大学院単位取得後退学、博士 (学術)、社会福祉士、精神保健福祉士、介護支援専門員、認定社会福祉士 (スーパーバイザー)、鹿児島県産業教育審議会委員、社会福祉法人理事、鹿児島市共同募金委員会委員等。
日本福祉大学を卒業後、ソーシャルワーカーとして社会福祉協議会等に勤務。2010年より教員へ転向。日本福祉大学等を経て、2024年より現職。実践と理論が融合する教育を目指し、幅広い専門職・団体との連携を心掛けている。